

知的財産権概論 第3回
特許権をどのように取得するのか？

2013年10月9日

弁理士 佐伯裕子

明細書作成までの検討手順

開発目的(研究テーマ)の明確化

先行技術調査

自分の発表論文・関連出願の抽出

本発明の客観的な把握・見直し
(具体的な製品のイメージ)

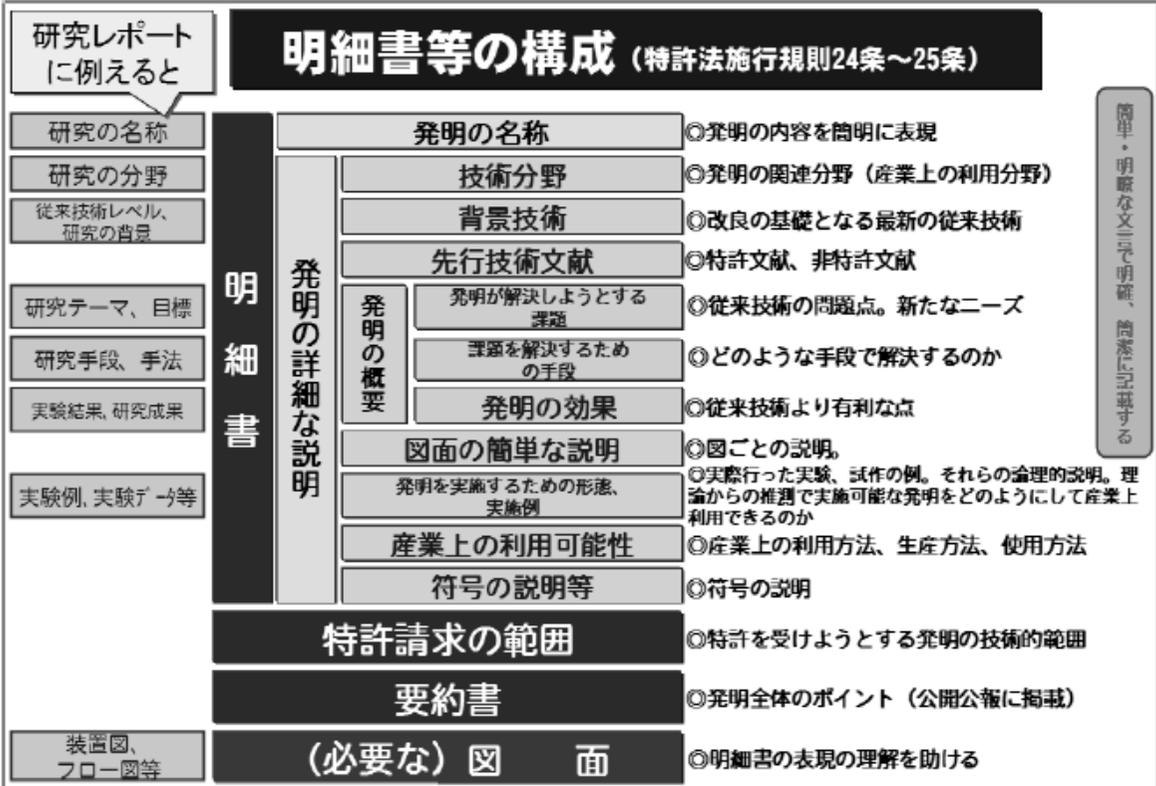
実施例、適用例の追加

(論文、学会発表を見た当業者が思いつきそうな例)

完成明細書

特許出願に必要な書類

<p>特許印紙</p> <p>【書類名】特許願</p> <p>発明者や出願人等を記載します。</p>	<p>【書類名】明細書</p> <p>発明の内容を記載します。</p>	<p>【書類名】特許請求の範囲</p> <p>求める権利の範囲を記載します</p>	<p>【書類名】要約書</p> <p>発明全体のポイントを簡潔に記載します。 (公開特許公報への掲載のみを目的)</p>	<p>【書類名】図面</p> <p>発明の内容理解に役立つ図面を記載します。</p>
---	-------------------------------------	---	--	--



出願明細書に書くべきこと

論文

論文を読んだ研究者がすぐに思いつくこと、試してみようとする事

実験データから確実にいえること

実験データ

出願明細書

当業者が実験データに基づいて容易に実施できること

実験データから確実にいえること

実験データ

主な拒絶理由

産業上利用できる発明ではない

§ 29 - 1 柱書

発明の単一性を満たさない

§ 37

新規性がない

§ 29 - 1 - 1, 2, 3

進歩性がない

§ 29 - 2

先願がある

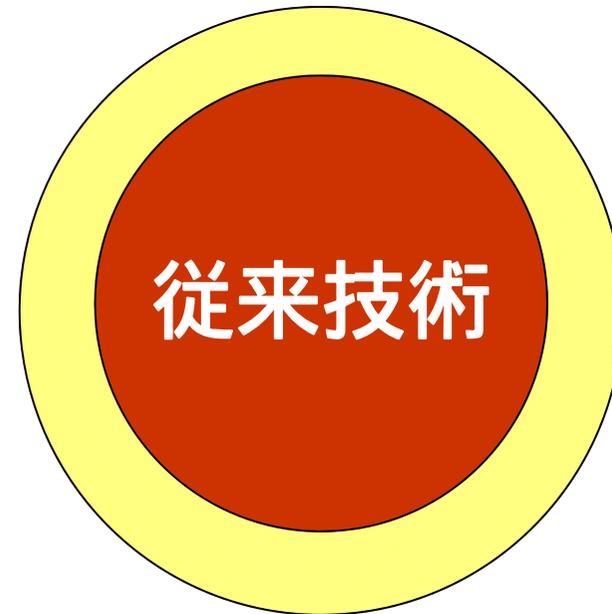
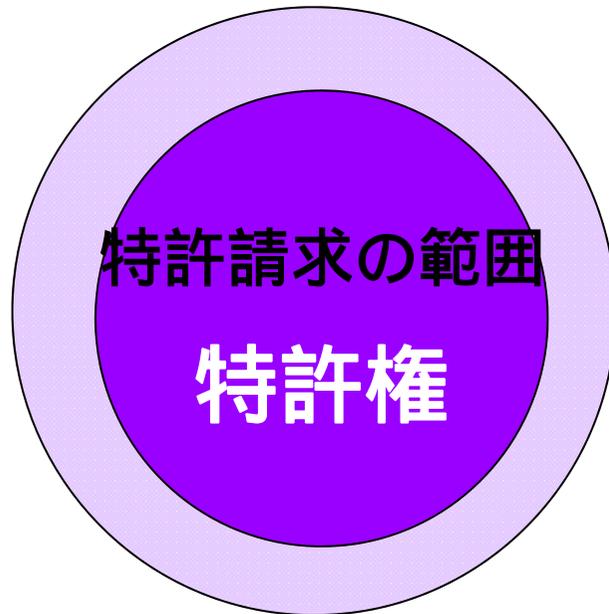
§ 39 § 29 の 2

明細書の記載に不備がある

§ 36 - 4 - 1, 6 - 1, 2

従来技術と特許権

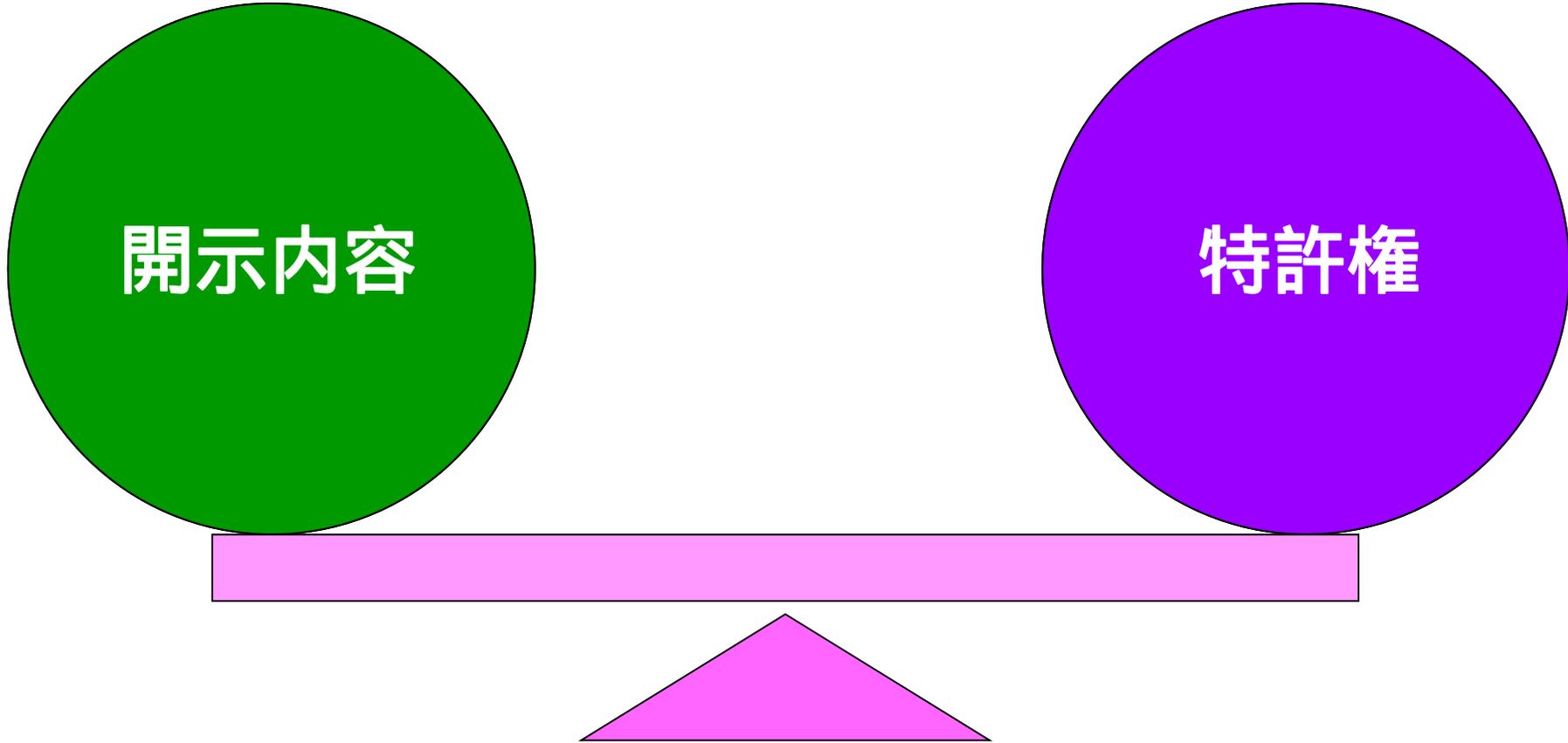
従来技術とその広がり = 新規性・進歩性



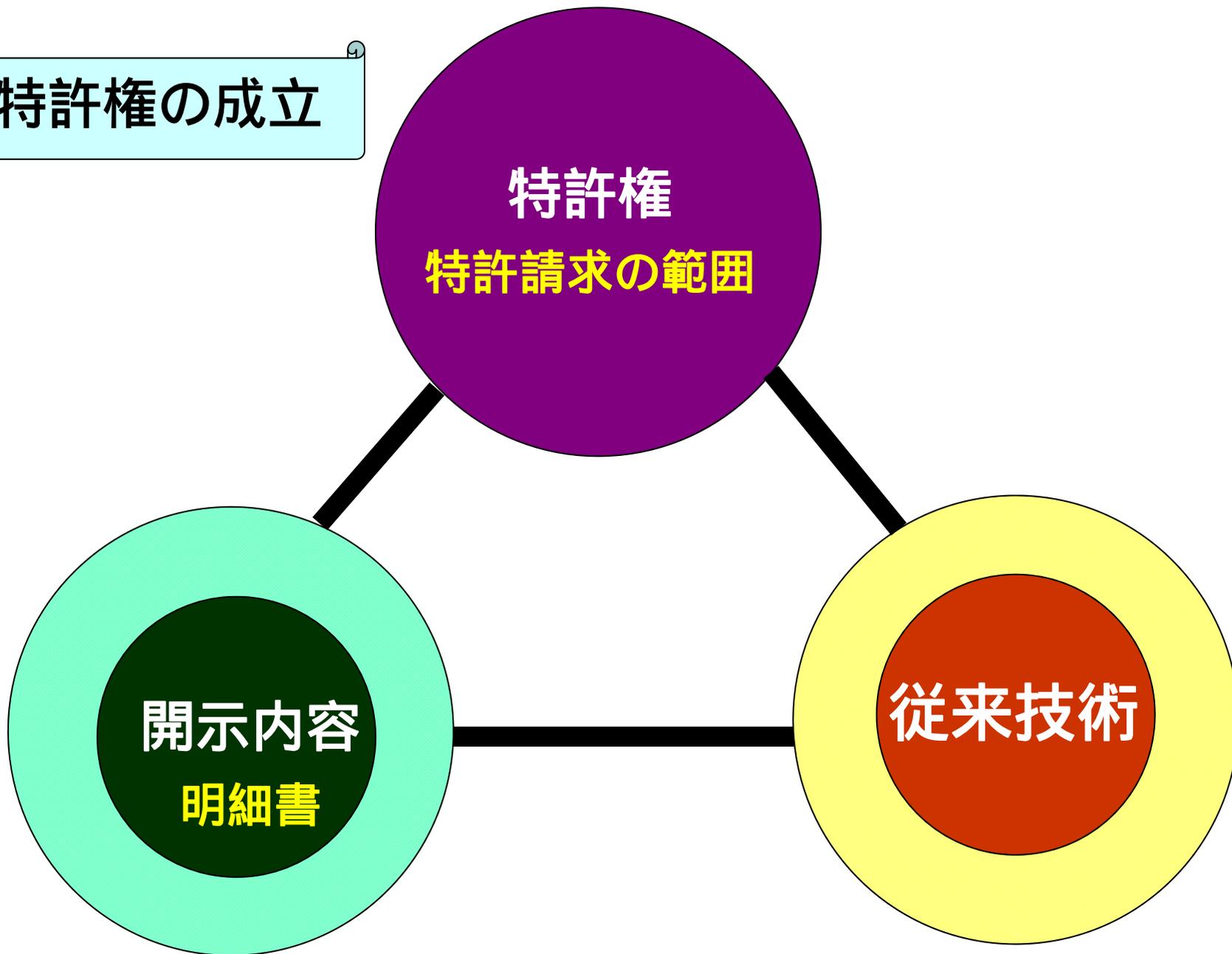
明細書の開示と特許権

開示内容

特許権



特許権の成立



特許権

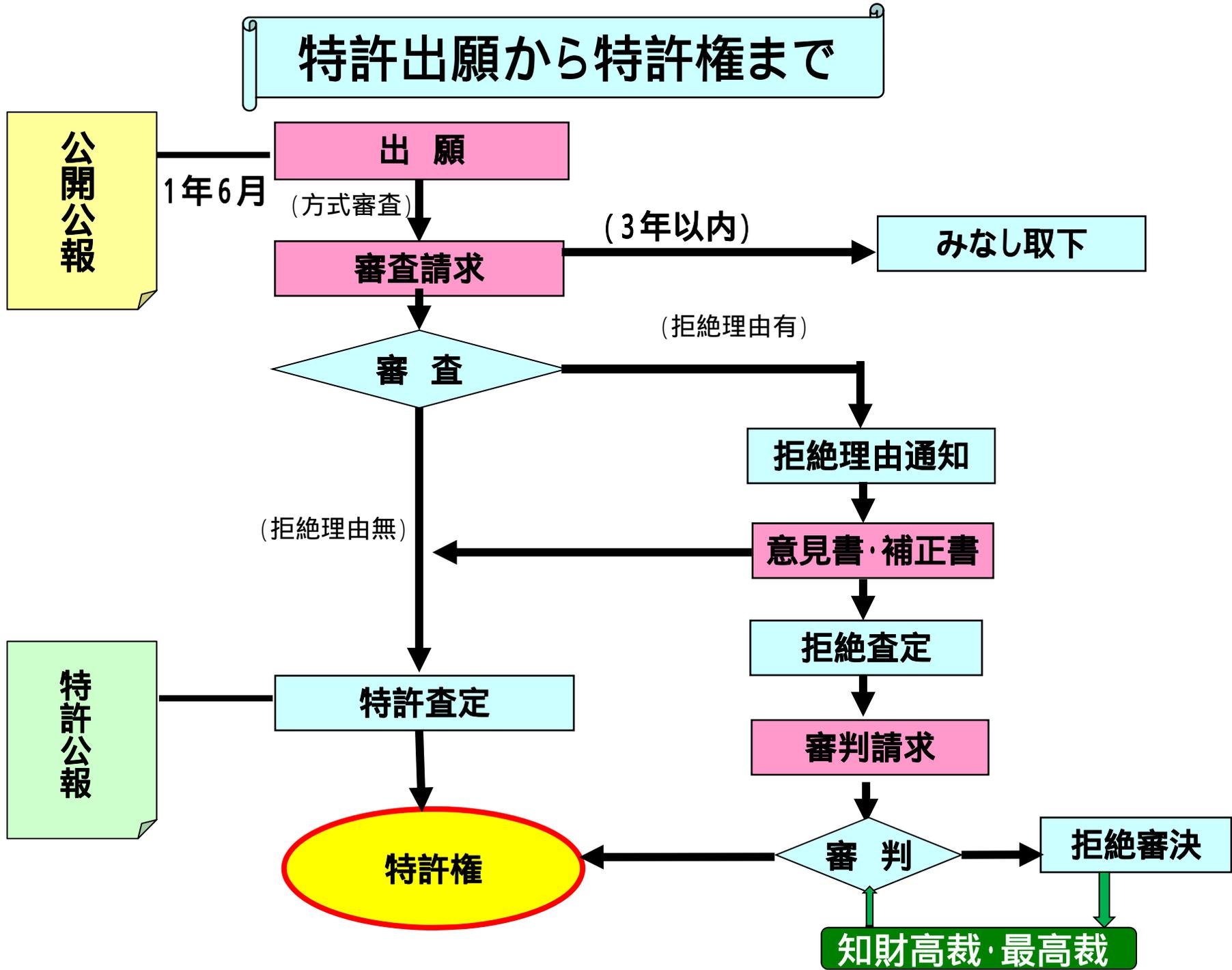
特許請求の範囲

開示内容

明細書

従来技術

特許出願から特許権まで



審査官による実体審査

